【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 4 日（11 月 10 日午後）】出場選手コメント

◆男子やり投げ　F45/46　決勝

・山崎　晃裕（順天堂大学職員）

正直、もっと世界と勝負したかったが、今日の結果が今の自分のすべて。これが実力なので、しっかり受け止めて、また来年に向けてしっかりやっていこうと思う。ここ数カ月は、自分の思うような投げができず、あと 1 本が出ずに悔しいシーズンになった。基本的なズレがあったり、来年に向けてコーチとしっかり相談してやっていきたい。

基本的には気持ちを出すタイプだが、ちょっと空回りした点があった。もっと落ち着いて助走をリズミカルに入るようにと指示があった。記録を伸ばせなかったのは自分の弱さかなと思う。海外勢との違いは記録ではなく、後半にも記録を伸ばしている強さに差があると思う。国内の試合とは異なりテンポや流れが遅かったが、それは皆、同じ条件、言い訳にはならない。その中で、どう工夫していくかをこれから考えていかなくてはならないと思う

・高橋　峻也（日本福祉大学）

記録は自己ベストでしたが、一時は 4 位に入って、また抜かれてしまった。最後の追い返しが自分にはまだ足りない所。冬季練習でしっかり弱点を克服したいと思う。

4 投目で 4 位になったが、あまり考えず、腕をしっかり振りぬこうと思って投げた一投だった。大舞台で記録が出せたのは、日頃の大学での練習環境、コーチも部員たちも一緒になって応援してくれているところだと思う。

4 位に入れなかったのは悔しい気持ちが 100%。外国人との実力差を感じた。外国人は最後までしっかり記録を伸ばし続けているので、そこが日本人には足りないところだと思った。東京パラリンピックの出場権を獲得することが目標なので、これからも頑張りたい。

・白砂匠庸（おいおいニッセイ同和損保）

初めての世界選手権。1 投目から空回りし、リズムが合わず自分の思うような投擲ができなかった。今回の内容を見直し、冬季練習では 3 人で一緒に切磋琢磨して頑張りたい。

今日は 3 投目まではギリギリベスト 8 に残れるかどうかだったので不安なところもあったどうにか残れてからの 4 投目以降は、いつものリズムをつかんできて、コーチからも「今のリズムで」と言われた。自分の投擲はできていたが、自分に足りないところをしっかり見直すこともできたので今後につなげたい。

◆女子 100m　T12　予選
・澤田　優蘭(マッシュスポーツラボ)
　記録としては、いまひとつ振るわなかった。スタートを飛び出してから、イメージしてた
　よりも早く体が起き上がってしまったのが、しっかり加速に乗れなかった要因かと思う

（走り幅跳びの）疲れもとれて、状態としてはよかったので、記録を狙っていくつもり
だったし、決勝進出も見据えていた。

塩川竜平ガイド
決勝に残るには 1 着しかなく狙っていったので､走り自体が勝ちにこだわってしまったのかなと
思う。いいところがあまりでていなかったかなと勉強になりました。

◆男子走り幅跳び　T63　決勝　　銅メダル
・山本　篤（新日本住設）
　最低限の目標だった（東京パラ代表内定の）4 位以内を取れたので、やるべきことはや
れたのかなと思う。ただし、ジャンプに関しては、1 本目はまあまあいいジャンプだった
と思うが、それ以降は良くなった。腰を痛めた影響での体力面の不安があり、自分の良い
ジャンプが全くできなかった。

（課題は）スピードです。今季は全く戻らなかった。戻すというより、作り直すのが正
しいかもしれない。体は日々、変わっているので、今の自分の状況でしっかり走れるように、
作っていって、試合ではどう踏み切れば、もっと遠くへ飛べるのかを考えたい。7m は見えてい
るので、しっかり跳べるように、まずはスピードをしっかり出していきたい

今回は自分が完全にいい状態でここに臨めたかというと、そうではない。現状でできる
パフォーマンスはしたと思うが、自分の現状を考えれば、それ以上のものも出せたと思
う。体の状態はよくないので、けがとの付き合い方など、しっかりやらなければいけないと
思っている。

この時期に東京パラ内定が決まるのは早めに準備ができるので大きい。（競技日程の）
8 月 29 日に合わせて最高のパフォーマンスが出せるようにやっていきたい。

◆女子 400m　T47　決勝

・重本　沙絵(日本体育大学)

前半から攻めた走りはできたかなと思うが、後半、思うように走れなかったのが現状。他の選手はかなり攻めてきているなと思い離されないように、自分も上げていきたいなと思っていたので、そこはできたかなと思う。（反省点は）後半。コーナーから直線に入ったときに、全然加速できなかった。コンディションもよく、アップもきれがあっていい形だっただけに残念。実力不足かなという感じです。

タイムは 58 秒前半や 57 秒台を狙ってきていて、ドバイ入り直前の記録会でもいいタイムがでていたので、58 秒前半や 57 秒台を言い聞かせながら走ったが、ちょっと悔しいです

◆男子 100m　T45/46/47　予選

・鈴木　雄大(日本体育大学)

緊張もしたが、楽しんで走ろうと思った。足に気になるところはあったのですが、明日以降も続くので、けがをしないようにと一番意識した。最近、記録会でも出ていなかったので、最低ラインの記録かなと思う。この緊張感には慣れてきたので、走り幅跳びなど、自分らしいパフォーマンスができればと思う。

・石田　駆(愛知学院大学)

タイム的に中途半端な走りになってしまった。昨日に続いてベストを出したいと思ったが、これまでは､スタートでロスをしてしまう分､後半の伸びで挽回することを意識してきたが、今日はラスト 30m 辺りで抜かれたのは予想外の展開がおきたことで、驚いた。

　今回、100m でも 400m でも、最後に抜かれてしまうのは国内ではあまり経験がなかったが慣れていないことが起きてしまったのは、勉強になった。今後に生かしたい。

・階戸　健太(AC・KITA)

やっぱり緊張してしまったので、自分の思った走りができなかった。スタートは今まで通り行けましたが、後半、ばててしまった。世界選手権は初、いい経験をさせてもらったので､緊張せずに走れる日が来ればいいなと思う｡メンタル面は大きな課題の一つなので、こういう経験をたくさんしていけたらと思う。

（コメント協力：星野恭子）